(平成20年3月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>3月期の野菜の入荷状況は、施設野菜では加温用重油の高騰によって厳しい生産条件となり、入荷の減少した品目があった。さらに、上旬の低温、早魃によって入荷時期が平年より若干遅れた産地が見受けられたものの、中旬からは天候の回復とともに多くの品目で入荷が増加し、全体としては前年並みの入荷量となった。</p> <p>価格は、白菜が入荷増の単価高、トマトが入荷増の単価安となるなど、品目によって傾向が違い、特に入荷が不安定な品目で高値推移となったが、下旬には多くの品目で入荷量が増加したため価格は下がり、結果的に前年並みとなった。</p> <p>品目別には、西洋にんじん、キャベツ、ナスが入荷減の単価高で推移し、ほうれんそうは入荷増の単価安であった。また、レタスは、入荷量、価格ともに前年を下回った。</p> <p>根菜類は、入荷が4%減少し、価格は25%高となった。 葉菜類は、入荷は前年並みで、価格は9%高となった。 果菜類は、入荷は前年並みで、価格は7%安となった。 土物類は、入荷が前年並みで、価格は7%安となった。</p>
果 実	<p>3月期の果実の入荷状況は、上旬の低温によってイチゴやメロン類等で入荷の減少が見られたものの、主力の柑橘類が小玉傾向ながら入荷増となったことで、全体の入荷量としては前年並みとなった。</p> <p>価格については、イチゴの需要が低迷したことと、主力品目である柑橘類の単価安が影響し、前年同期を15%下回った。</p> <p>品目別には、ミカン、伊予柑が入荷増の単価安で推移し、ふじりんごが入荷減ながら価格が前年並みとなった。イチゴは、入荷量、価格ともに前年を下回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が26%増加し、価格は36%安となった。 りんごは、入荷が27%減少し、価格は前年並みとなった。 いちごは、入荷が8%減少し、価格は6%安となった。 メロン類は、入荷が29%減少し、価格は27%高となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
<p>【根菜類】 長大根</p> <p>西洋人参</p>	<p>長崎県，徳島県を中心とする入荷。産地では作付面積が減少しているものの，中央市場の集散機能が発揮され，入荷量は前年並みとなった。 価格は，需要の低い太物中心の入荷ながら，前年同期を14%上回った。</p> <p>鹿児島県，徳島県を中心に入荷。鹿児島県産の切りあがり早く，結果として入荷量は前年同期を5%下回った。 価格は，主力の鹿児島県産の入荷が少なかったことと，中国産の需要が低迷したことによって極めて高値での推移となり，前年同期を129%上回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>九州地方を中心に，愛知県，兵庫県からの入荷。愛知県，兵庫県<small>の冷蔵物については</small>秋冬の天候の影響で良品は少なかったものの，京都市場への入荷は多く，入荷量は前年同期を26%上回った。 価格は，入荷増ながら良品での引き合いが強く，前年同期を26%上回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>秋冬系は愛知県，茨城県を中心に，春系は愛知県を主力に兵庫県，九州地方からの入荷。春系については各産地ともに上旬の低温によって生育が遅れ，全体の入荷量は前年同期を10%下回った。 価格は，前月に続く入荷減に加え，中国産冷凍食品の残留農薬問題から国産需要が依然高く，前年同期を33%上回った。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>徳島県，茨城県を中心に入荷。上旬は前月の高値によって入荷増となり，逆に下旬には入荷減となったものの，結果として入荷量は前年同期を26%上回った。 価格は，上旬は入荷増によって安値推移し，下旬には入荷減によって回復したが，全体としては前年同期を32%下回る安値となった。</p>
<p>レタス</p>	<p>兵庫県，徳島県を中心に，茨城県，九州地方からの入荷。各産地ともに低温，早魃の影響から小玉傾向となり，入荷量は前年同期を7%下回った。 価格は，入荷減ながら需要が低迷しており，前年同期を7%下回る結果となった。</p>

【果菜類】	
きゅうり	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。主力の宮崎県は作型変更から上中旬の入荷が減少し、入荷量は前年同期を15%下回った。価格は、入荷減ながら需要は伸びず、前年並みに留まった。</p>
なす	<p>高知県を中心に、岡山県からの入荷。各産地ともに、加温用の重油高騰に伴い、コスト削減のために栽培環境が悪化したことで入荷が減少し、中旬からは天候の回復とともに入荷は増加したものの、入荷量は前年同期を11%下回った。価格は、入荷減によって、前年同期を11%上回った。</p>
トマト	<p>熊本県、福岡県を中心に三重県からの入荷。各産地ともに上中旬は低温の影響を受け入荷が減少していたが、下旬には天候とともに入荷量も回復し、結果的に前年同期を7%上回った。価格は、入荷増に加えて小玉傾向となり、前年同期を16%下回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎県を中心に高知県からの入荷。各産地ともに入荷量は回復傾向ではあるものの、低温等の影響から依然不安定な入荷が続く、全体の入荷量は前年同期を4%下回った。価格は、下旬に入荷が集中したことで安値が目立ったが、不安定な入荷の中で全体としては前年並みとなった。</p>
【土物類】	
ばれいしょ (メーク含む)	<p>北海道、鹿児島県を中心に入荷。主力産地は天候に恵まれ順調な入荷状況となり、入荷量は前年並みとなった。価格は、入荷量が前年並みながら、豊作傾向で安定した入荷状況から、前年同期を26%下回った。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に静岡県、長崎県、兵庫県からの入荷。静岡県、長崎県からの新物は、前年より若干遅れ気味の入荷となったものの作柄は良好であり、貯蔵物については兵庫県が早期終了し、中下旬は北海道中心の入荷となったが、結果として前年並みの入荷量となった。価格は、産地の切り替わりがあったものの、入荷量自体は安定しており、前年並みで推移した。</p>
【菌茸類】	
生しいたけ	<p>徳島県、和歌山県を中心に広島県、岡山県からの入荷。各産地ともに低温で入荷が遅れたものの、中旬からは順調な入荷となり、全体としては前年並みの入荷量となった。価格は、上旬は品薄状態から高値となり、中旬からは入荷の増加とともに下がり始めたが、結果的に前年同期を6%上回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
みかん	<p>和歌山県を中心とする入荷。前年が極端な入荷減であったことと、小玉傾向ながら豊作だったことが重なり、前年同期を176%上回った。</p> <p>価格は、入荷増に加えて小玉傾向、さらに前年が極端な高値で推移したこともあり、前年同期を56%下回る安値となった。</p>
伊予かん	<p>愛媛県を中心とする入荷。産地が1月に出荷調整をしたことで入荷状況が平年とずれこみ、入荷量は前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は、出荷調整の影響による入荷増に加え、昨年が柑橘類全般に高値相場であったことから、前年同期を39%下回った。</p>
八朔	<p>和歌山県、広島県を中心に入荷。小玉傾向に加え、産地での出荷調整もあったことから、入荷量は前年同期を28%下回った。</p> <p>価格は、他の柑橘との競合もあり、前年を27%下回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>青森県を中心とする入荷。ヤケ等の品質的な問題による極端な前進出荷で産地の在庫が減少しており、入荷量は前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながらも良品が少なく前年並みとなった。</p>
いちご	<p>福岡県、佐賀県、熊本県を中心に大分県、愛媛県からの入荷。各産地ともに3番果の切りあがり早く、前進出荷気味となったことから、入荷量は前年同期を8%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら需要は低く安値傾向で推移し、前年同期を6%下回った。</p>
アールス	<p>静岡県、宮崎県を中心とする入荷。重油の高騰から栽培環境が悪化したことで入荷は大きく減少し、入荷量は前年同期を28%下回った。</p> <p>価格は、入荷が減少したことに加え、業務筋での需要が高かったため、前年同期を32%上回った。</p>